

第3回日本伝統医療看護連携学会学術大会

3rd Academic Meeting Japan Society of Traditional Medicine and Nursing Science

学術大会ホームページ
こちらから



会期 2021年 **11月28日** (日)

会場 仙台赤門短期大学

大会長 佐藤 喜根子 (仙台赤門短期大学看護学科学科長・教授)

登録期間 演題・参加登録ともに2021年5月10日(月)～8月27日(金)

テーマ

連携医療を イノベーションする

特別
講演

先進的な鍼灸医学



公益社団法人日本鍼灸師会

会長 **小川 卓良** 先生

教育
講演

(仮)薬膳料理の基本と料理



国際薬膳師・国際中医師・料理研究家・鍼灸師

横須賀 真奈美 先生

※東日本放送「突撃！ナマイキTV」に出演中！

主催 : 日本伝統医療看護連携学会
名義後援 : 宮城県,(公社)全日本鍼灸マッサージ師会,(公社)宮城県柔道整復師会,(公社)岩手県柔道整復師会,(公社)青森県看護協会,(公社)宮城県看護協会,(公社)山形県看護協会,(公社)岩手県看護協会,(公社)福島県鍼灸あん摩マッサージ指圧師会,(公社)宮城県鍼灸マッサージ師会,(公社)岩手県鍼灸マッサージ師会,(公社)宮城県鍼灸師会,(公社)岩手県鍼灸師会,(公社)福島県鍼灸師会,(公社)宮城県栄養士会,社会福祉法人宮城県社会福祉協議会,(公社)宮城県作業療法士会,宮城県認知症ケア専門士会,福島県あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう赤十字奉仕団,東北放送,仙台放送,宮城テレビ放送,東日本放送,河北新報社

学会ホームページ
こちらから



事務局 : 宮城県仙台市青葉区国分町1丁目6-7 赤門鍼灸柔整専門学校内
電話番号 : 022-217-7065 E-mail : jstn@akamon.ac.jp
公式HP : <https://jstn-am2.jimdofree.com/>

大会長ごあいさつ



仙台赤門短期大学看護学科学科長・教授
大会長 佐藤喜根子

看護と伝統医療には、本質的に相通じあう要素が潜在していることから、連携しあうことでこれまでにない新しい有益なものを生み出し、社会に還元するという意気込みで立ち上げられた「日本伝統医療看護連携学会」の学術集會も、昨年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)でオンデマンド配信方式のWeb学会となりました。

学会長は亀井啓氏で大会テーマは『**「わ」**』でした。大会長講演は『東洋医学こぼれ話－東西融合のコンセンサス成熟を目指して』と題して、東洋医学の様々な歴史的・地理的背景を踏まえた内容でした。印象的だったのは、中国の南方は高温多湿で薬草となる植物が豊富で「湯液治療」に発展したが、北方では植物が乏しかったので鍼灸が発展したということをお記憶しています。

そして今回、第3回目の学術大会です。「3」は「満つ」や「充つ」に通じ、縁起の良い数字といわれています。また、古代中国の陰陽思想では、奇数が陽、偶数が陰とみなされており、「老子」の第42章に「道は一を生ず。一は二を生じ、三は万物を生ず」とあるようです。そして数字にも意味があり、「1は元気」「2は陰気と陽気」「3は天地が合うと万物を生む穏やかさ」を指すといわれており、「3」に対する崇高な思いが日本に伝承されたという説もあります。

「天地が万物を生む穏やかさ」とは何？広辞苑によれば、「万物」とは宇宙に存在している全ての物－ありとあらゆる物－ということになるという。だとしたら…

2019年12月に中国武漢市で突然発生したCOVID-19は、2020年1月に日本に上陸し、僅か1年で感染者数433,417人、死者数7,948人(2021.3.1)となった。全世界では感染者数が1億1,467万人、死者数264万人(2021.3.1)と1年半前の日常がいつ戻れるのか不安の日々を迎えている。これもまた決して穏やかさと表現されるものではないが、天地が産んだ万物に違いない。人類はこれまでも1918年のスペイン風邪(死者数2,000~4,000万人)、1957年アジア風邪(死者数200~400万人)と苦難を潜り抜けてきた。スペイン風邪とCOVID-19の違いは、前者は新生児や若者に脅威だったが、後者は高齢者に脅威となっている。

超高齢社会の日本の死亡原因が昨年、悪性新生物－心疾患－老衰となった。悪性新生物は緩和ケアが重要となり、老衰は健康寿命の延伸が必須となる。医療も施設医療から在宅医療にシフトし、さらにCOVID-19は医療崩壊に拍車をかけると社会問題になっている。

このような時にこそ、免疫力を高め、自粛生活を強いられる中でロコモティブシンドロームの予防が必須となる。時代はSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)である。地球規模でGood Health and Well-Beingを目指し、ツボ刺激やお灸等を用いた補完代替医療で世界をリードしていこうではありませんか？「ダイバーシティ&インクルージョン(多様性と包括)」も叫ばれています。多職種の人材が一体となって働き、この状態が進むことで人材が定着し成果を出す。この方向を目指すことが今問われています。

皆さん、一緒に「連携医療をイノベーション」していきましょう！

【当学会のQ & A】

Q1

「医療連携」って、伝統医療・東洋医学と看護は対等なの？



当然です。それぞれに国家資格や職能が違うのですから、高下はあり得ません。対等です。

Q2

でも、連携したら、職能や患者さんの奪い合いにならないかしら・・・？



当学会の活動を通じて、医師や看護師が、伝統医療・東洋医学を理解し、鍼灸院や整骨院などの治療院に患者さんを紹介する機運が生まれることを願っています

Q3

医療連携って、そんなことできるのかしら？



直ぐにはできません。伝統医療・東洋医学も一般的に理解されるように論文を投稿するなど更に努力しなくてはなりませんし、西洋医療も伝統医療を理解する努力が必要です。

Q4

なるほど、だから「連携医療をイノベーション」なのね。



まずは、お互いを知る「相互理解」から。徐々に理論的妥当性をもった検討・論議をはじめる予定です。